

利用者が認知症を疑われる場合は、訪問看護にご相談ください！

訪問看護では、認知症の方の症状を安定させ、家族の困りごとにも対応します。軽度の時から関わることで重度化を予防し、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことのサポートをします。

利用者の方で該当する症状などがある場合は、訪問看護にご相談ください。

利用者の方であてはまるようなことがありますか？

◎こんな症状がある（認知症状）

YES

- 物の忘れが激しく、食事をしたことも忘れる
- 言葉の意味が分からず、会話のつじつまが合わない
- 怒りっぽく、興奮すると暴言や暴力をふるう
- 認知症ではないかと心配している
- 不安がありふさぎ込んでいる

◎ こんな症状がある（身体症状）

YES

- 何日も排便がない
- 入浴をイヤがる
- 水分が摂れていない
- 隠れた疾患等があるのではないか

◎ 介護者の負担がある

YES

- 介護のため、ゆっくりと休む暇がない
- 介護者が本人にどの様に接して良いかわからなくなっている
- 介護者がイライラしている
- 虐待が疑われる
- 昼夜逆転して夜中に何度も起こされる・一人で勝手に出かけてしまう

◎ 在宅生活を続けるのは無理ではないか

YES

- このまま一人暮らしを続けたいと希望している
- 住み慣れた家で家族と暮らし続けることを希望している
- 本人が拒否してサービスを導入することができない

◎ 予防効果を期待したい

YES

- 処方されている薬が飲めなくなった
- 医療機関に受診できない
- 症状が進むのを抑えたい

※認知症施策推進大綱によると、予防とは、認知症にならないという意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を穏やかにする」という意味です。

訪問看護にご相談ください

認知症の方を介護するご家庭の訪問看護の利用事例をご紹介します。

こんなところにチェックが入りました

◎こんな症状がある（認知症状）

- 言葉の意味が分からず、会話のつじつまが合わない
- 怒りっぽく、興奮すると暴言や暴力をふるう

◎ 介護している家族の負担がある

- 介護のため、ゆっくりと休む暇がない
- 人が変わってしまったようで悲しい気分になる

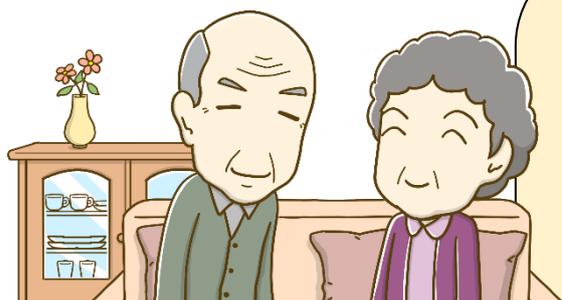
◎ これからのことに不安

- この先どの様に生活していけば良いかわからない



訪問看護はこんなケアをしました

- ◎訪問看護師は連日訪問し、奥さんからのSOSにも急いで駆けつけるなどの迅速な対応を重ねました。
- ◎ご本人やご家族からそれぞれ別にゆっくりと話を聞き、思いを受け止めました。
ご本人に対しては、回想法（昔の経験や思い出を語り合う心理療法の1つ）を行い心穏やかな時間を作りました。
- ◎同居していない家族にも連絡を取り、全員が介護に関われるような提案をしました。
- ◎訪問看護師は、認知症の症状の対応方法を他の職種にも共有し、訪問介護等の他のサービスを導入しました。



こんな効果がありました

- ☆ご本人は訪問看護師に対して自分の気持ちを語ることで気持ちが落ち着くようになり、奥さんへの暴力・暴言がなくなりました。
- ☆家族も認知症の症状について理解するようになり、疎遠になっていた長男や長女も介護に参加し、家族で協力しあうようになったことで、奥さんの介護疲れが軽減されました。
- ☆ご本人と家族が、安心して在宅で療養生活を送ることができるように、かかりつけ医やケアマネジャー、訪問介護員等のチームで対応できる環境が整いました。

〇〇訪問看護ステーション

Tel: